

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

|         |  |    |        |
|---------|--|----|--------|
| 代表者氏名   | 長谷川真里  | 所属 | 横浜市立大学 |
| 研究集会等名称 | 社会認識研究会  |    |        |
| 成果概要    | <p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員           14名 (うち認定心理士   0名)<br/>非会員         5名 (うち認定心理士   0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>生活環境, 労働環境が大きく変化する現代社会では, 社会の仕組みを理解し, よき市民となるための教育がますます重要になっている。近年, 裁判員制度も始まり, 一般市民が直接, 司法に関わる機会も増えた。こうした状況のなかで, 社会認識の発達に関する研究が, 今, 求められているといえる。そこで, 本研究会は, 広く社会の仕組みに関する理解の発達, およびそれらに関する教育実践に関心のある研究者・教育者が研究交流する場を提供し, 社会認識の発達について理解を深めることを目的とし, 本年度はシンポジウムを開催した。</p> <p>今年度の成果: 日本発達心理学会大会 シンポジウムの開催<br/>テーマ: 「乳幼児期の他者理解の発達」</p> <p>・日時: 2015年3月21日(土) 12時30分~14時30分<br/>・場所: 東京大学(東京都文京区本郷7-3-1)工学部2号館212<br/>・概要<br/>社会認識には, 身近な他者の理解という「対人的」領域と, 経済や法などの制度の理解, 社会正義の理解など「対社会的」領域が含まれる。本シンポジウムでは, 対人的領域の中の, 乳幼児期を中心とした他者理解・人間理解に注目した。そこで, 乳幼児期から児童期にかけての特性理解や他者理解について精力的に実証研究を行っている研究者からの報告と参加者との議論を通して, 他者を理解するということの適応的, 発達の, そして教育的意味について考えた。</p> <p>話題提供:<br/>(1) 『その人らしさ』の推論はどのように発達するか?: 乳児期・幼児期・児童期における他者の特性理解 清水由紀(埼玉大学 教育学部)<br/>(2) 「母親による子どもの内的世界への注目と子どもの社会的発達」篠原 郁子(国立教育政策研究所)<br/>(3) 「特性の変容可能性についての幼児の信念とその発達」中島伸子(新潟大学)<br/>指定討論: 原 孝成 鎌倉女子大学短期大学部 初等教育学科</p> <p>・参加者 120名<br/>※ 集会の目的を十分に達成したと考え、来年度以降は休会の予定。</p> |    |        |

2015年3月28日

日本心理学会研究会 2014 年度会計報告書

研究会名称 社会認識研究会

研究会番号 \_\_\_\_\_

助成金額 ¥30,000

| 年月日 | 項目                          | 金額       |
|-----|-----------------------------|----------|
|     | シンポジウム 講師謝礼 (1名)            | ¥2,000   |
|     | シンポジウム 講師謝礼 (1名)            | ¥2,000 ✓ |
|     | シンポジウム 講師謝礼 (1名)            | ¥2,000 ✓ |
|     | シンポジウム 講師謝礼 (1名)            | ¥4,000 ✓ |
|     | シンポジウム 会場費 (発達心理学会大会シンポジウム) | ¥20,000  |
|     |                             | 支出合計     |
|     |                             | ¥30,000  |